

蚊やマダニからの 感染症にご注意を！

問 健康増進課（保健福祉センター内） ☎ 25 - 2100

蚊

蚊を介しての感染症には「ジカ熱」や「デング熱」、「日本脳炎」があります。蚊は、屋外の草むらなど身近なところに生息していますので、これからの季節、蚊に刺されないように注意しましょう。

■なぜ対策が必要？

ジカ熱やデング熱は、蚊を介して感染します。原因となるウイルスは、感染した人の血を吸った蚊の体内で増え、その蚊がまた他の人の血を吸う時にウイルスを移し、感染を広げていきます。

また、日本脳炎は、日本脳炎ウイルスに感染しているブタなどの動物から蚊を介して感染します。日本脳炎を発病した場合、特異的な治療法はなく、20〜40%が死亡に至ります。後遺症を残すことが多いと言われており、予防接種および蚊の対策が重要となります。

■感染するとどうなる？

感染してもすべての人に症状が出るわけではありません。しかし、ジカ熱では、3〜12日、デング熱では3〜7日の潜伏期間の後に発熱や関節の痛み、発疹が出るといった症状が1週間ほど出現することがあります。

ジカ熱は妊婦が感染すると、小頭症などの先天性障害をもつ子どもが生まれることがあります。デング熱では、出血を伴うデング出血熱となり、重症化することがあります。

また、日本脳炎では、6〜16日間の潜伏期間の後、発熱などの症状に続き、急激に意識障害、けいれんなどの中枢神経系障害を生じ、神経学的後遺症を残す例が多いと言われています。

■予防方法

蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。

- ①長袖、長ズボンを着用し、屋外では肌の露出をなるべく避ける。
- ②虫よけ剤などを使用し、蚊を寄せ付けないよう注意する。
- ③室内も蚊の駆除を心がける。
- ④蚊の幼虫の発生源を作らないように注意する。
- ⑤蚊の発生源である水たまりの除去や清掃をする（植木鉢の皿、雨ざらしの用具など）。

マダニ

マダニは、特に春から夏にかけて活動が活発になります。野外レジャーや農作業などが盛んになるこれからの季節、マダニに咬まれる危険性が高まります。マダニは、主に森林、草むらや藪などに多く生息しており、市街地周辺でも見られます。



■予防方法

マダニからの感染症を防ぐには、農作業、野外レジャーや庭仕事など、野外で活動する際には次の点に注意しましょう。

- ①虫よけ剤などを使用し、虫を防御する。
- ②首の回りにタオルを巻き、長袖、長ズボンを着用する。シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れておく。
- ③足を完全に覆う靴、帽子、手袋などを着用して皮膚の露出を避ける。
- ④屋外活動後は、マダニに咬まれているか確認する。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部など。

また、発熱などの症状がないか確認する。

- ⑤脱いだ衣服は放置せずに、すぐに洗濯するか、ナイロン袋などに入れて口をしぼっておく。

■マダニに咬まれたときは

吸血中のマダニに気がついた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあります。必ず医療機関で処置をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱などの症状が出たときは、医療機関を受診してください。